

「あの」公園で、再び公認トレイルO大会が開催された。猛暑の中大会に参加した状況をレポートする。

2010年7月18日 千葉県富津市
第30回京葉OLC富津二日間大会 トレイルOの部

今回開催された富津市民ふれあい公園は以前の京葉大会(2008年11月)でも使用されたトレインで、前回スプリント大会として使用した部分が使われた。公園エリアはあまり広いとはいえない細長い区域であったが、コントロールではエリア内の特徴物を活かした様々な課題が問われた。

当日は絶えず汗が出てくる環境で行われたが、コース距離が1.8kmと短く、スタートとゴールが会場そばにあったことは移動する手間が省け非常に助かった。今回はその中からいくつかのコントロールをピックアップして説明をしたい。

■緊張のTC■

トレイルOではTC(タイムコントロール)があり、解答のほか、解答するまでの時間も問われる。解答のスタイルは人それぞれだが、筆者はなるべく早く解答するようにしている。早く正解が出せれば当然優位に立てるからである。とはいえ、不正解であれば加点はされず時間も60秒追加され不利になる。いかに地形をつかむかがポイントとなるが、どれくらいの時間で出来るか気になりTC前は緊張を強いられる。

今回のTCは狭いエリアの中であるものの同じ複数の特徴物(TC1では小凹地、TC2では岩)にフラッグが置かれ、それぞれの区別がいかにできるかが鍵となった。小凹地や岩は往々にして地図に記載されていないがそれらしいところに置かれることがあり(岩では地図に記載する基準の高さに満たしていない、ということ)、実際の地図と見比べながら解答した。

それから、最近では1つの場所で2つのTCを出す大会が多かったことから、1回目のTC通過して2つのコントロールの後に2問目のTCが出てきたときには不意を突かれた感じであった。

■点と線■

9番(やぶ、南東側 正答率33%)はやぶの南東側となっているが、地図を見るとやぶの角っぽいところに置かれている。やぶのふちを目でたどっていけば分かりそうだがやぶは真っ直ぐに茂っているわけではないので境界が分かりにくい(コントロール西側の道は立入禁止)。やぶの形状からCかDかで悩んだが、南からフラッグを見るとDはやぶから若干離れているように見えた。そうするとCの可能性が高くなり、周りの形からみてCと判断できる。ここは他の競技者も時間をかけて解答していたようだった。

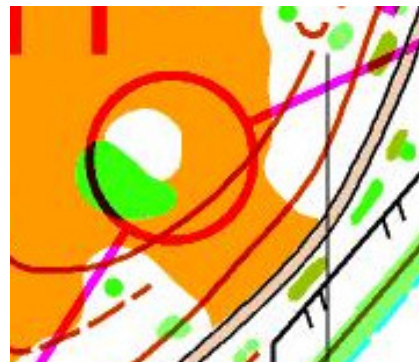


9番コントロール

11番(小さな林、東の部分 正答率40%)は道から少し上がったところにある木の周りに置かれていた。丸の中心は木とオープンの境界辺りにあるようだが下からではその境界は判別しにくく、近くに植え込みがあるもの他に目立った特徴物はなく、白くなっている林の形状や植え込み・道との距離関係をイメージしながらフラッグを絞り込んでいった。初めはフラッグが近接している3つの中から考えていたが植え込みとは若干離れている。そうするとBかZ(正解無し)であるが、Bは明らかに正解と思われるポイントから離して置かれているわけではなく、正解無しと判断する材料もないのでBと解答した。

■成績(TAクラス)

- ① 大久保裕介 14p 13 sec
- ② 木村治雄 14p 34 sec
- ③ 伴 毅 13p 22 sec
-
- ⑦ 木島英登(P) 12p 33 sec



11番コントロール

13番(尾根 正答率50%)はステージのふちをラインとしてその延長線と尾根が交差するところが丸の中心であるが、そこにフラッグはないので正解無しとなる。このコントロールは先に記した通りステージの延長線を認識し活用できればよく、難易度としては決して高いものではない。しかし、他のコントロール(例えば7番(正答率57%))と比較しても正答率が低いのは地形のイメージが容易ではなかった、最終コントロールだったので気を抜いてしまった、もしくはコントロールの間隔が離れていなかったのも正解無しにするには厳しいと判断した(これは筆者の言い訳)等が考えられる。



13番コントロール

■最後に■

トレイルOは大会数が少なく実践できる場が限られている。暑く厳しい環境下でトレイルO及びスプリントを開催していただいた京葉OLCクラブに感謝の意を表したい。

(大久保裕介)